


看護 青い森

vol.
117
発行日
2024.1.15

ナースセンターだより

令和6年1月1日16時10分に発生しました「令和6年能登半島地震」により被害を受けられた皆様に心からお見舞いを申し上げます。一日も早く復旧されますことを心よりお祈り申し上げます。

令和5年度 会員数 8,489人 (昨年12月比 -184人) (令和5年12月22日現在)	保健師 211人 昨年12月比 -20人	助産師 326人 昨年12月比 -4人	看護師 7,646人 昨年12月比 -137人	准看護師 306人 昨年12月比 -23人
---	-------------------------	------------------------	----------------------------	--------------------------

■発行 /  公益社団法人 青森県看護協会 ■編集 / 広報出版委員会
■住所 / 青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ3階 TEL (017)723-2857 FAX (017)735-3836
URL <http://egao-park.net> E-mail ao.nurse@ceres.ocn.ne.jp



会長あいさつ

公益社団法人青森県看護協会 会長 榎谷京子



新年明けましておめでとうございます。十二支は動物で表し今年の干支は辰年です。辰は唯一想像上の動物とのことで、何か創造が膨らむ一年になりそうな気がします。

社会は高齢化、人口減少、経済など課題の多い時代と言われ、大きな節目にあります。看護職は生活の質に比重をおいて取り組む中で、多様化するニーズに対応するために量と質を確保する必要があります。

ご承知の通り1992年に「看護師等の人材確保の促進に関する法律」が制定され、その法律に基づき「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的指針」が同年制定されました。この指針は2023年10月に30年ぶりに見直しが行われました。昨今の課題を捉え将来に向けた総合的な確保対策として方向性を示しています。私たちは看護を持続させて働き続けるために、指針を拠り所として十分に活かすことが求められています。

この30年間で働き方も大きく変わり、確保・定着について一層の努力が求められます。青森県看護協会では2023年6月に2040年に向けて活動方針を公開しました。その中で特筆すべきは、本会推計で2040年には5,000人の看護職が減少すると考えられ危機感が募ります。

ドラマの「Dr.コトー診療所」の主題歌「銀の龍の背に乗って」をご存じの方も多いと思います。離島に赴任し、島の人々との関わりを通して命の尊さを描いた作品です。この曲にある「龍」は幸運の象徴と考えられ、歌詞は人々への愛や信頼関係がいかに大切であるかを語り、そして苦難な時も前を向いて踏み出すという強さが示されていると言われています。

コロナ禍では新たな看護の創造の連続であり、そのために多くの調整や改善をしてきました。2024年は会員の皆様にとり、辰年にあやかり健やかで幸せと創造に満ちた一年になることをご祈念申し上げます。



医療機関等の看護職員の賃上げを可能にする財政支援に関する要望

青森県看護協会会長と青森県看護連盟会長の連名で要望書を提出しました。当協会榎谷会長から看護職の置かれている「確保と定着」に係る現状や課題、処遇改善の必要性について伝えました。

この他、滝沢求参議員議員、木村次郎衆議員議員、津島淳衆議員議員へも要望書を提出しました。

令和5年10月22日
衆議院議員
神田潤一氏へ提出

青森県看護連盟会長(左)・
神田議員(中央)・
青森県看護協会会長(右)



令和5年10月25日
衆議院議員
江渡聡徳氏へ提出

青森県看護連盟会長(左)・
江渡議員(中央)・
青森県看護協会会長(右)・
十和田市議会議員
山端美樹子氏(一番右)



青森県訪問看護総合支援センター

令和5年5月に開所して早くも8か月が過ぎました。皆様のご協力により、研修、訪問看護実態調査、病院看護職員の出向支援、相談業務、運営協議会の開催等を進めることができています。今年、BCP策定の義務化、診療報酬等のトリプル改定、オンライン資格確認システムの導入があり、忙しさが倍増しているのではないのでしょうか。当センターは、2名体制ですが訪問看護の応援隊として尽力してまいります。これからも宜しくお祈りします。



センター長の
其田貴美枝です
猫LOVE♥生活を
送っています

●訪問看護体験型研修

80名が参加！

新人訪問看護師が誕生しました！

令和5年7月～12月にかけて訪問看護体験型研修を実施しました。協力施設は40施設、研修者は80名、内訳はAコース(1日間)71名、Bコース(2～5日間)9名、看護職45名、医療系学生32名、介護職等3名でした。

研修者からは、参加目的を「達成できた」、訪問看護について「理解できた」と回答を得ております。そして、**研修者から新人訪問看護師が誕生しました！**その方は、体験先の所長さんから「利用者がいつもと同じ生活を送

ること、それも看護のゴール。」という言葉を受けて感銘を受けたそうです。この体験から訪問看護師になることを決意し就職しました。

訪問看護は、どのような看護をしているのか？自分の働き方に合っているのか？など、体験でしか得られない気づきがあります。訪問看護に興味がある方、ぜひ研修にご参加ください。

●訪問看護管理者研修会

28名が参加！

『訪問看護の経営の基礎知識～強みと弱みを分析して改善策を考えよう～』

訪問看護管理者研修会を令和5年10月7日(土)、リンクステーションホール青森において開催しました。講師は渡邊尚之氏(株式会社渡邊経営/渡邊会計事務所代表)です。渡邊先生は公認会計士/税理士としてご活躍中ですが、看護師としてのキャリアをお持ちです。



講義では、訪問看護ステーションが増加する一方で休止・廃止をする事業所が一定数あること、数字を活用することにより現在の経営状況、今後の予測ができることをご講義いただきました。

グループワークでは事例を用いたSWOT分析を行い、活発な意見交換がなされ他事業所の方々と顔なじみとなり、横のつながりを作っていました。

研修者から、講義やグループワークをとおして「同じように経営に悩みを抱えていることを知れた」や、「管理者として訪問業務以外の経営に必要な視点、考え方を学ぶことができた」といったご意見をいただきました。

皆様の経営力が向上し事業所の安定経営につながることを心より応援しております。

●訪問看護質向上研修会

10名が修了！

『エコーを活用した排泄ケア～初級・中級コース～』

訪問看護質向上研修会を令和5年11月3日(金)・4日(土)にアピオあおもりにおいて開催しました。講師は、東京大学医学系研究科准教授の北村言先生、研究員の幅大二郎先生、函館市の訪問看護ステーションフレンズ所長の保坂明美先生です。

研修者は、事前にe-ラーニングを受講して研修に臨みました。初日は、エコーの使用法や観察法を、翌日はOSCE(客観的臨床能力評価)を行い、全員が中級コースまで修了することができました。利用者の身体状態をエコーで読み取る力を習得した皆様、今後のご活躍を期待しています。



研修者がポータブルエコーの画像を見ている様子

広報出版委員会取材レポート

今年は総会や県学会の他、研修会などの取材に精力的に取り組めました！



看護職の働き方改革推進フォーラム

2023年10月27日(金)県民福祉プラザにおいて、看護職の働き方改革推進フォーラムが開催されました。

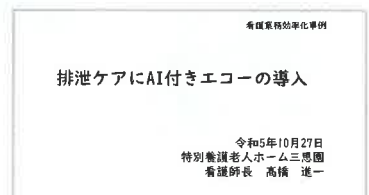
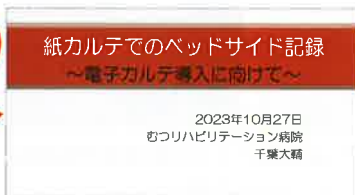
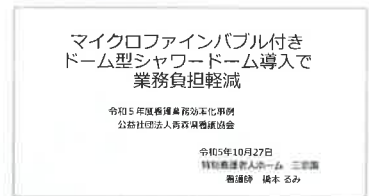
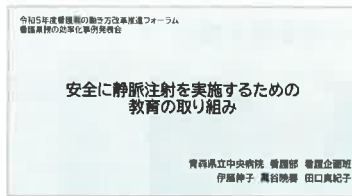
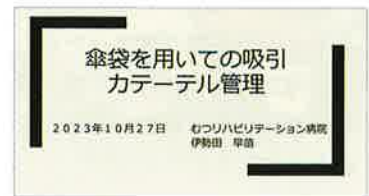
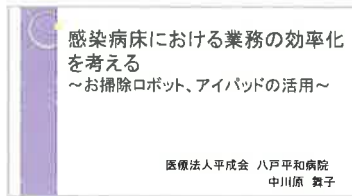
始めに各施設で取り組んだ看護義務の効率化事例発表会が4施設7事例ありました。

感染病床における業務の効率化を図るためにお掃除ロボット・アイパッドを活用した事例がありました。COVID-19感染が流行し陽性患者を受け入れるにあたり、看護師の負担軽減を図るために取り組んだ事例です。お掃除ロボットやアイパッドを導入し、看護記録や患者とのコミュニケーションの時間の確保ができたというメリットがあったと報告があり、現在も活用しているそうです。その他PPの画像を参照して下さい。

次に日本看護協会労働政策部看護労働課の小村由香氏より、『就業継続が可能な看護職の働き方の実現を目指して』というテーマで、看護現場での課題をふまえた働き方の提案など、貴重なお話を聞くことができました。

看護が魅力的な仕事であるために、自らも取り組めることはないか考えさせられる良い機会となりました。

記：広報出版委員 大坂祐貴美
(公立野辺地病院)



第1回認知症看護研修会

あおもり認知症看護の会主催・青森県看護協会共催

令和5年10月28日(土)に第1回認知症看護研修会が行われました。会場であるアピオあおもりには県外からの参加者も含め約90名の方が来場されました。

講師の北海道医療大学名誉教授 中島紀恵子氏からは「目からウロコ!明日の認知症の看護が変わる」と題して講演がありました。中島先生のご年齢は80歳半ばとのことでしたが、穏やかな口調でありながらも、パワーポイントを使いこなしたパワフルさも感じさせるご講演でした。

「認知症は記憶に霧がかかっているようになっているそうです。私たちは認知症の人に対して、危険から守るため、その人からいつもの習慣をとりあげてしまう。習慣とはその人が手に入れた歴史である。その人それぞれのストーリーがある。私たちは忘れてしまった記憶を耕すことを手助けしていくことが大切。そのためには断片を拾い集める力を持つこと。時間はないが、その人が言いたいことを傍にいてゆっくりと話を聞いていくこと。そしてみんなで共有していくこと。それはまるで、パズルにピースをあてはめていく作業のよう。そういう仕事だと思えば楽しいのではないですか。」とお話しされていました。

冒頭の荻谷会長から「中島先生は拝見しただけで包みこまれる雰囲気がある」とのご紹介どおり、講演からは認知症を抱える方々を大切に思う気持ちが伝わり、私自身も明日からの看護に少しずつ役立てていきたいと思いました。

記：広報出版委員 太田 花世 (弘前記念病院)



令和5年度災害支援ナースフォローアップ研修・交流会

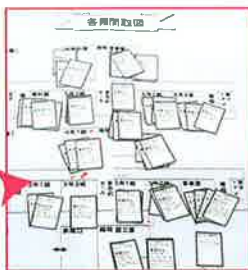
災害支援ナースとしての資質向上および連携・交流を図る目的で毎年開催しているこの研修会ですが、今年度は11月1日(水)県民福祉プラザにて開催しました。改正医療法による「災害・感染症医療業務従事者」についての説明の後、青森県小児周産期リエゾン・フリーランス助産師の橋爪直美氏から「災害時における母子看護支援」について演習を交えた楽しいご講義をいただきました。

参加者からは、今まで災害時に妊産婦が要配慮者であるという認識が薄かったが、今回の講義で理解できた、発災直後のパニック感、検討事項の多さを体感でき、情報収集と整理の難しさを知ったといった感想が聞かれました。

続いて、青森県立中央病院 小児看護専門看護師の羽場美穂氏から、「災害時における小児看護支援」につ

いてご講義をいただきました。参加者からは、普段小児を対象としていないため、災害による子どもへの影響を学べた。また、日頃から遊びを通して防災について考えることも大事だと感じたといった感想が聞かれました。

今回、現行の災害支援ナース対象として最後のフォローアップ研修になりましたが、次年度以降も新たな災害支援ナースの方々へ、必要な情報をタイムリーに提供できるとともに、資質向上のための研修等の開催も検討していきたいと思っております。現行の災害支援ナースの皆さま、所属施設等関係機関の皆さまにはこれまでのご協力に関し、感謝申し上げます。今後とも新たな災害支援ナースとして登録していただき、引き続きご協力賜りますようお願いいたします。



*小児周産期リエゾン橋爪直美氏による災害時要配慮者バージョン避難所運営ゲームHUG 小児看護専門看護師 羽場美穂氏

令和5年度青森県医療的ケア児保育普及啓発フォーラム開催

青森県が行った医療的ケア児実態調査によれば、県内に164名の医療的ケア児がおり、そのうち、就学前の子供たちは76人(46.3%)おります。

医療的ケアを必要とする就学前の子供たちが、安心・安全に保育所等に入所できる体制づくりは喫緊の課題であることから、当協会では、県の委託を受けて令和2年度から『医療的ケア児保育普及啓発フォーラム』を開催しております。

今年度は、10月24日(火)県民福祉プラザにて開催し、60名が参加しました。

医療的ケア児支援法が制定され、市町村の責任も明確に謳われている中で、行政とし

て、保育所として、医ケア児の保護者としての立場でパネルディスカッションを行い、保育・医療・教育現場の連携の必要性を改めて認識できた機会となりました。

フォーラムの詳細は協会ホームページに掲載しておりますのでそちらをご覧ください。



保育所等における看護職員等の資質向上 推進事業(新規受託事業)

保育所等における平時の感染対策を研修・実践することで、感染対策の強化を図る目的で、今年度初めて、県子どもみらい課からの委託を受けて事業を実施しました。

県内12か所の保育所等に感染管理認定看護師を派遣したほか、県内3か所(青森市・弘前市・八戸市)で感染対策研修会も実施しました。感染対策研修会は延べ115名の保育士、保育補助、看護師が参加し、感染対策の基礎知識について学び、実際に手指衛生の演習

も行いました。グループワークによる情報交換ができ、横のつながりができたと、とても好評の研修会となりました。

12月4日(月)には事業の報告会を実施しました。次年度も当事業を継続実施する予定となっておりますので、是非活用していただき、感染管理対策の底上げを目指しましょう！



介護施設の医療安全を初視察!!

令和5年度介護施設における看護職・ 介護職との医療安全交流会

医療・看護安全委員会では、令和5年10月13日(金)リンクステーションホール青森にて「令和5年度介護施設における看護職・介護職との医療安全交流会」を開催し、介護施設等から14名の参加がありました。

今年度、介護施設の訪問をして、与薬に関する業務などを見学させていただき、誤薬予防のための患者確認方法について結果を報告しました。また、公益社団法人青森県介護支援専門員協会会長 木村隆次氏より「介護施設における医療安全・誤薬予防」をテーマに、介護現場での事例を交えた薬剤管理の重要性や具体的なポイントと多職種協働についてお話いただきました。職場での研修会に活用できる内容として「いきいき健やかチャンネル」YouTube @ikiikisukoyaka-atv716も紹介されましたので、機会があればご覧ください。



交流会では施設での悩みについて意見交換を行い、開催後のアンケートには、他施設の現状を知り参考になった、次回も開催してほしい、講義内容がとても良かった、等の感想がありました。今回の実施報告は青森看護協会のホームページをご覧ください。来年度も企画していますので、是非ご参加をお待ちしております。

看護職の連携のための圏域内研修会

10月21日(土)に、ホテルサンルート五所川原で、「看護職の連携のための圏域内研修会」を開催しました。看護職間連携に関する研修会は令和2年度から実施していますが、より実効性のある取り組みを推進するため、今年度は支部の協力を得て、圏域を絞って開催しています。今回は西北五支部との合同研修で、63名が参加しました。

まず、康心会汐見台病院看護部長の熊谷雅美先生から、「新たな医療の在り方を踏まえた看護職の役割の発揮」をテーマに、人口や働き方の変化、医療の変化とともに、新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた今後の看護の在り方について、ご講義いただきました。



講師の熊谷雅美氏

次に、市町村保健師の立場から五所川原市地域包括支援課の笠原課長、病院看護師の立場から(医)白生会胃腸病院の中澤総看護師長、助産師の立場からつがる総合病院の山中助産師、産業看護職の立場から産業保健看護上級専門家の千葉産業保健相談員の4名に、「看護職の連携事例」について話題提供をいただきました。その後、11グループに分かれて、「看護職の連携のためにできること」をテーマに、連携のために実践したいことやできそうなことについて、情報交換を行いました。

今回の研修会は、地域の看護職間における顔の見える関係づくりはもとより、日頃実践している取り組みや感じている課題も共有でき、現場レベルで看護職間連携を推進していくために、有意義なものとなりました。次年度は東青圏域で開催する予定です。

記：保健師職能委員 種市 雅

話題提供者の皆さん



笠原美香氏



中澤美子氏



山中麻衣沙氏



千葉敦子氏



グループワークでは、職能委員や支部役員が各グループに入り、情報交換を行いました。

西北五支部長から研修後の一言



今回の圏域を絞って開催した研修会では、西北五地域における看護職間の連携事例を理解でき、推進するために必要な知識を習得できたと思っています。

アンケート結果からも「西北五地域での問題をもっと知りたい」「普段、連携について考えたことがなかったのが勉強になった」との意見が聞かれ、今後も連携を図り情報共有を行っていきたいと思いました。

かんごちゃん大人気

11月3日(金)は「いいお産の日」！毎年、当協会では青森県助産師会との共催により開催しております。今年はサンロード青森(青森市)でした。今回は気合いを入れ、助産師職能委員会でお揃いの『かんごちゃん』入りのビブスを作ってみました。

ファザーリングジャパンの講師による「パパと一緒に遊びましょう」では、お父さんの子どもの発達に合わせた遊び方をレクチャーするなど、親子の絆を深める時間となり、参加者にとっても好評でした。その他、母子のための災害時グッズの紹介や妊婦体験、子どもの赤ちゃん抱っこ体験など充実したイベントとなりました。

記：助産師職能委員 菅原 千枝

助産師職能委員会



最善の意思決定支援とは？

看護師職能委員会Ⅰでは、外来看護師の在宅療養支援に関する実態調査から、事例検討会を重ね病院と在宅療養を繋ぐために外来看護師の役割の重要性を再認識しました。

そこで今年度は、意思決定支援に関する知識を習得し、外来看護職員として実践に繋ぐことができるようになることを目指し、9月30日(土)に『外来看護師の在宅療養支援能力向上に関する事例検討会』を青森県労働福祉会館で開催いたしました。

参加者35名が7グループに分かれ、日頃、意思決定支援について困っ



ていることを話し合った後、東京女子医科大学病院看護副部長 家族支援専門看護師 藤井淳子先生より「在宅医療支援能力向上～意思決定支援に焦点を当てて～」についてご

看護師職能委員会Ⅰ

講義をいただきました。カルテ情報を見ず、短時間で場所を選ばず患者家族にまずは挨拶を交わすことから始め、「気にかけてくれる看護師になる」こと、そこから「治療や療養場所と一緒に考える人」になるまでのプロセスについて事例を交えてわかりやすく教えていただきました。講義を受けた上で各グループに戻り、改善できそうなことや実践できそうなことを話し合い発表し、先生から今後につなげていけるご助言もいただき、とても有意義な会になりました。

記：看護師Ⅰ職能委員 福田 美恵

県内BCPの実態調査を発表！

第52回青森県看護学会(令和5年11月11日(土)開催)において看護師職能委員会Ⅱでは、昨年度実施した「青森県内の介護施設・事業所における事業継続計画(BCP)策定状況に関する実態調査」について発表しました。職能委員会Ⅱでの活動を多くの人に知ってもらえることができたと思います。

昨今、地域包括ケアが推進され暮らしの場を支える職能Ⅱ領域での看護師の役割が大きく変化し、看護連携や多職種連携が重要になってきます。職能委員会Ⅱでは、今後も様々な研修会や実態調査などを企画していきたいと思っております。皆様の参加をお待ちしております。

記：看護師Ⅱ職能委員 奈良岡由佳

看護師職能委員会Ⅱ



東青支部

会員の皆様、調査にご協力をお願いいたします！

支部会員の皆様に、支部活動と看護協会事業について調査を行います。目的は、「①支部活動のあり方の参考にしたい ②看護協会事業の認知度を知り、支部活動の中で伝えたい」です。

調査方法は、以下の3種類から1つ選択し、回答していただきます。

1. マナブル（青森県看護協会HPからアクセス）
 2. QRコードを読み取る（グーグルフォーム）
 3. 郵送されたペーパーに回答を記載し返送する
- 回答に要する時間は、およそ10分程度であり、送信



東青支部役員会 活発な意見交換

又は返送をもって同意といたします。

ぜひ、皆様の声を聞かせて下さい。ご協力よろしくお願い致します。

記：支部長 角田 つね

中弘南黒支部

Let's ピラティス!!

11月18日(土)「Let's ピラティス～こころと身体を整えよう～」をテーマに秋の学習会を開催し会員37名が参加しました。

Myヨガマット持参で、講師のSAKURAS小林明日美氏を中心に放射状にスタンバイ。いざ実践！胸式呼吸からの深部の筋肉や骨に意識を向けたエクササイズ。体の歪みを整え、心の安定・集中力向上、メンタルヘルス効果も得られるとのこと。アンケートからは興味があったピラティスが出来て大満足。体を動かすことができさっぱりした。と、それぞれリフレッシュできたようでした。



▲弘前市民文化交流館ホール（4階）にて開催

◀本日最高難度 苦戦中

こころと身体をコントロールし長く働き続けていこう。

記：第一副支部長 葛原 裕美

三八支部

令和5年度
第4回青森県看護協会
三八支部看護実践報告会

11月18日(土)YSアリーナ八戸において、看護実践報告会をハイブリッド形式で開催しました。看護職、看護学生45名の会場参加と、ZOOM受講21名が参加してくださいました。

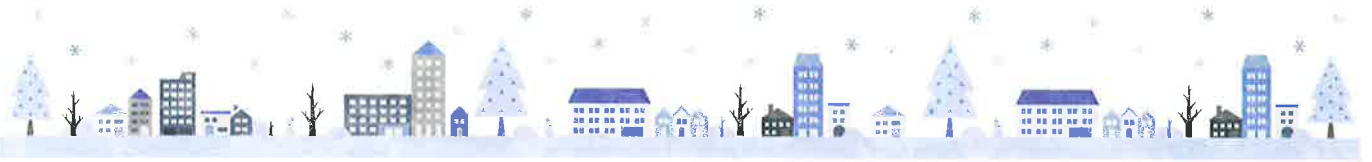
「患者の生活の質を維持し、地域で暮らし続けるための切れ目のない看護について考える」のテーマのもと、八戸看護専門学校副校長の小野寺江利子氏を座長にお迎えし、八戸平和病院、八戸病院、八戸赤十字病院の3



看護実践報告会の様子

施設より看護実践について発表していただきました。その後の質疑応答においても活発な意見交換となり、有意義な時間となりました。

記：記録係 若林 桂子



下北支部

広報活動再開

12月2日(土)大間町にて大間産業祭が開催されました。

コロナ禍で各地のイベントが中止となり、広報活動が出来ずにおりましたが、この度機会をいただき看護協会PRのため参加してきました。

血圧測定、手洗いチェッカーを用いての手洗い指導、看護協会パンフレット配布、子供用白衣を着用してかんばんとの写真撮影会を行った中で、特に手洗いに関しては「あんなに手を洗ったのに」「意外と洗い残しあるんですね」等と、興味を持って体験していただきました。

今回の手洗いのように、看護協会PRとともに来場者が体験できるような広報活動を行っていきます。

記：広報担当 高橋 善弘



手洗いに興味津々

上十三支部

みさわ社協まつりと 上十三支部看護ケア検討会を開催

令和5年9月24日(日)みさわ社協まつりが開催され、健康相談コーナーを担当。100名の来場者に骨密度測定と脈波測定は好評で、生活習慣を振り返る機会と共に看護活動のPRを行いました。

10月21日(土)には「災害支援の実際」をテーマに看護ケア検討会を開催し、3名のシンポジストより「令和3年七戸町豪雨災害の保健活動」「楽晴会地域防災チームの福祉・介護現場の災害支援活動」「災害支援ナースの令和元年台風19号の活動」の報告がありました。



みさわ社協まつり健康相談風景

支援の実際を知ることで、多職種の役割と連携や備えを学び、今後の連携強化に繋がる場となりました。

記：記録係 根岸満智子

コロナ感染症等対策研修会



青森県看護協会では10月25日(水)に県内の児童養護施設や児童相談所、乳児院等に勤務する看護職や職員を対象に「新型コロナウイルス感染症等対策研修会」を実施し、14名が参加しました。

青森県立中央病院 感染管理認定看護師の今めぐみ氏を講師にむかえ、感染対策の基本に関する講演の他、防護具の着脱や手洗いチェッカーを使用した演習を行いました。



！ セカンドキャリアセミナー

～プラチナナースの活躍の場を共に考えよう！～

10月18日(水)リンクステーションホールで開催、50代から70代の看護職28名の参加がありました。当協会会長 榎谷京子より「明日のために、今日つながろう」と題し、医療・生活の現場を支える看護職の現状に加え、事業主・管理者へはプラチナナース雇用力の自主点検として①方針の明確化②加齢・健康状態に応じた業務内容と就労条件③教育・研修を通じた能力開発④役割・能力に応じた賃金・処遇の仕組みづくり等、プラチナナース戦力化に向けたお話をさせていただきました。

体験発表では、病院総師長から看護科教授を経て現在 デイサービスで働き続ける小笠原陽子氏と、市町村保健師として退職後、訪問看護ステーションの立ち上げに尽力し今なお病院看護助手として新たな挑戦を続ける細谷昭子氏のお話で、「将来への希望が持てた、背中を押して貰えた」との参加者からの声も聞かれました。

セミナー後半には、今年度新たな試みとして、「プラチナナース活き活き相談会」を開催、働き方について双方の思いを共有する機会となったようです。



青森県看護協会地域応援看護職『青森ともナース』発動!!

地域偏在が顕著な大間町の国保大間病院へ青森ともナースとして、3ヶ月間短期就労している青森市出身の八木澤真理子さん(61歳)にインタビューしました。

●青森ともナースへ登録されたきっかけは？

30代より関東で勤務していましたが、働く中でこの県でも看護師が足りないのを肌で感じていました。青森県は特に人口が少ないので、以前から60歳になったら青森に戻り地元へ貢献したいと思っていました。帰省後、青森市内で就職活動をしていましたが、ちょうど大間病院への地域応援看護職のお話を聞き、

関東での応援ナースの経験を活かし働いてみたいと思い応募しました。

●大間病院で働いてみた感想は？

新しい職場環境の中で仕事することは、とても緊張し大変でしたが、大間病院は看護職の皆さんが患者さんの話をよく聞き一人一人に向き合う姿勢がすばらしく、それは職員同士でも同じでした。自分が忘れていた看護の心を思い出させてくれ、自



分もこうありたいと改めて思い現在仕事をしています。地域に根差した病院で働けることに感謝し、これからは慣れ親しんだ青森で、年齢を重ねても看護職として自分にできることをやっていきたいと思います。



大間病院 総看護師長 吉田美穂子さんより一言

大間病院は48床の小規模病院ですが、へき地の医療を担い「やれることはすべてやる」をキャッチフレーズに寄り添う看護の展開をしております。10月23日より青森ともナース第1号の八木澤さんを迎えました。「患者さんと触れあい、地域を知りたい」とお話しくださり毎日明るく勤務されています。人生の中での数か月間、新たな自分探しをしてみませんか。

※青森ともナース… 地域で共に生きる、地域を共に創る、地域で共に笑顔に！「とも」は、看護職が地域共生社会に貢献するために、地域の人々や他職種と友となり共に歩んでいくことを表しています「とも」は友だち・伴走・共生を意味します。

！ プラチナナースの活躍を紹介します！

“看護”を生きがいとしての挑戦

武田川 龍子



「これからは自立した女性に」という父の言葉で看護師となり、県立の病院で33年間精神看護に携わりました。勤務時代は、看護計画、看護研究等で看護協会主催の研修に参加し、学びを深めて実践に役立てることが出来ました。上司や同僚に恵まれ楽しく働いておりましたが、56歳の時に早期退職し1年間休養、その後、民間の病院やデイケアセンターでの勤務も5年程経験しました。

62歳の時に、以前からの趣味の大正琴やオカリナの演奏で各施設を回るというボランティア活動に生きがいを求めましたが、看護に携わっていないことに何か物足りなさを感じはじめました。自分には「看護師として社会のために少しでも役立ちたい」という思いが強くあることを確信し、66歳の今年3月にナースセンターの紹介でコロナ対

応の外来看護に従事し現在に至っております。

職場では、コロナ対応で今までとは全く違う業務内容に戸惑うことも多々ありましたが、感染管理について多くのことを学ぶことが出来ました。そして高齢と言われる年齢、4年のブランクがあった中での挑戦でしたが、先輩に指導を受けながら業務に努めています。勿論、趣味の楽器演奏も継続しております。

そして今、“看護の道”を選択しやりがいを感じながらこの仕事を続けていられるのは、父のあの一言が始まりだったのだなぁ、間違っただけではなかった、との思いを強くする毎日です。

！ キャリア支援セミナー

ママ・パパ Café

9月28日(木) ホテル青森にて、7名のママさんパパさん看護職の皆さんが参加しました。

体験発表は、青森新都市病院鳴海パパーナースさんと、青森市民病院倉内ママナースさんが、子育てと仕事を両立させるために実践していることや、心構え等をお話してくださいました。

その後は、ヨガ講師 前田典子先生をお迎えしてのヨガを皆で体験し、リフレッシュのひと時を過ごせたようでした。



看護管理者と看護師等学校養成所教員との情報交換会

コロナ禍で実習に影響を受けた新卒看護職の支援体制の確立を目的に、9月23日(土) リンクステーションホール青森で開催され、35名が参加しました。

講演では、長野県看護大学基礎看護学講座教授 渋谷美香氏より『臨床と基礎教育で支える新人看護師の

成長』と題して、新人看護職への有効なかわり方や、実際に取り組みをしている病院紹介などがありました。

グループワークでは、「新卒看護職員の県内定着を図るために」のテーマで話し合わせ、コロナ禍で3年間グループワークを実施できませんでしたが、短い時間の中で臨床と教育現場での情報交換・共有となりました。



2022年度
新規認定

2022年度開講
サードレベル第1期生
14名がCNAに!!

青森県看護協会主催（第1期生） 『認定看護管理者教育課程セカンドレベル』が 終了しました

青森県看護協会主催の1回目の認定看護管理者教育課程セカンドレベルが、10月11日で33日間のすべての課程を終了しました。

研修初めの頃は、やや緊張気味だった受講者40名も終盤には、グループワークなどで活発に意見交換する姿が見られていました。アンケートでは、「講師が非常に良かった。他施設の方との意見交換がとても有意義であった。こんなに『看護』について考えたことはなく貴重な体験だった」などの声が聞かれていました。

昨年まで、コロナ感染症の影響でリモート学習だった実習も直接施設に訪問させていただき、学びを深めることができました。また、講師の方々の貴重なご講義や、演習支援者の皆様の適切なアドバイスが管理についての知識を高め成長につながりました。

ご協力いただきました実習施設の皆様、お忙しい中おいでいただきました講師の方々、演習支援者の皆様、受講者を送り出してしていただいた医療施設の皆様に深く



感謝申し上げます。

受講者の皆様は、セカンドレベルで出会ったかけがえない仲間ができたと思います。

今後、施設の課題解決に取り組み、それぞれの場で活躍してくださることを祈念しています。

記：認定看護管理者教育課程専任教員 今井・松本



令和6年度認定看護管理者教育課程研修募集案内

ファーストレベル

【募集期間】令和6年1月15日(月)～2月15日(木)

【開講期間】令和6年5月22日(水)～7月8日(月) 20日間

セカンドレベル

【募集期間】令和6年3月15日(金)～4月15日(月)

【開講期間】令和6年7月22日(月)～10月4日(金) 33日間

注) 令和6年度の募集よりmanaableでの申込となります。

各施設等への開催案内は送付いたしませんので、青森県看護協会HP・manaableで詳細をご確認ください。

募集しています！ 思春期応援隊 ～一緒に地域保健に貢献しませんか？～

青森県看護協会では、県内の中学校・高等学校へ看護の出前授業を行っています。

命の大切さ・心と体の話、看護職の仕事について、簡単な看護技術体験等、要望に応じて、学校に出向き、お話しさせていただいております。看護職の立場から将来を担う子供たちに命の教育・性の教育を行うことにより地域保健に貢献しております。

出前授業をしていただける看護職の方、是非隊員として一緒に活動しましょう！

問い合わせ先：青森県看護協会 事業課まで TEL 017-723-7523



協会年会費の初回引落日が2月になりました！

会費納入方法を「口座振替」としている会員につきましては、看護協会費の初回引落日は例年1月27日でしたが、令和6年度分から**2月27日**に変更となります。

引落日にはご注意くださいますようお願いいたします。



青森県看護協会「LINE公式アカウント」 の登録をお願いします 令和5年11月始動！

青森県看護協会もとうとうSNSを始めました！

開設の経緯として広報のあり方について戦略的にかつ広く活動していくことが必要と考え、SNSを活用した情報発信をスタートした次第です。

これからは青森県看護協会に関連するニーズの高い情報や周知する必要がある情報などを配信していきます。

LINEからの情報は看護職に携わる人やこれから看護師を目指す人にとっても有益な情報を提供したいと思っていますので、是非、LINE公式アカウントに登録をお願いします。

看護協会に入会している方には、特典もあります。ホームページの「入会について」からアクセスできますので是非ご覧ください。



できるだけ多くの方に見てほしい… by職員



私たち
広報出版委員も
登録しました！



◆“コミュニティナース”をご存じですか？

中泊町社会福祉協議会及びつがる市社会福祉協議会が青森県から委託を受け実施している「社会福祉法人による『青森県型地域共生社会』西北モデル強化事業」の一つとして、令和5年3月からコミュニティナース活動をモデル的に実施しております。

コミュニティナースとは、「コミュニティナーシング」という看護の実践からヒントを得て提唱・普及してきたコンセプトです。

- ヒトとヒトをつなぎ、まちを元気にする
- 地域の人々の力を引き出し、まちの可能性をひろげる
- 地域に必要な機能をつくる

中泊町、つがる市では、研修を終えた7人の看護職の資格をお持ちの方が、地域の声やみんなのアイデアから『人とつながり、まちを元気にする』コミュニティナースとして活動しております。

現在、住民に身近な直売所、ストア、サロンなどに出向き、健康相談を実施し、病気の早期発見や行政機関への橋渡しなどを行っています。

記：赤石 一樹（中泊町社会福祉協議会）

健康相談・健康チェックの様子



中泊町特産物直売所「ピュア」にて



つがる市森田地区漆館サロンにて

看護技術のオンライン教育・研修に、すぐに導入できる！

eNurseTrainer

eナーストレーナー

NANDA-I
講義動画
収録！

- 日本看護学校協議会編集の指導案や模擬カルテで、学生の実習をサポート！（教育機関専用コンテンツ）

- 厚労省ガイドラインに沿った技術項目リストを収録！
- 施設オリジナルの研修内容も設定可能です！



無料トライアル受付中！

詳しくは「eナーストレーナー」特設サイトをご覧ください



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [WEBサイト] <https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL:03-3817-5650 FAX:03-3815-7804 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

ニプロ 医療機器データ連携サポートシステム
HN LINE
Hospital Network Line

連携情報端末
データ連携
電子カルテ

血糖管理 血糖
バイタル管理 SpO₂呼吸数 体温 血圧脈拍
輸液管理 輸液ポンプ シリンジポンプ
連続見守り 心拍心電波形

この広告に関してのお問い合わせ先 資料請求先 **ニプロ株式会社** 大阪府摂津市千里丘新町3番26号
2023年5月作成

仕事をしながらマイペースで学べます！
BS放送やインターネット等、オンラインで学ぶ

看護師の特定行為研修
共通科目(講義・演習部分)全科目開講中!!
～省令改正後の新基準にも対応～

放送大学は正規の通信制大学です。入学は、4月と10月の年2回。看護師・准看護師のみさんのキャリアアップを応援します。

まずは、資料をご請求ください。 [放送大学] 資料請求

青森学習センター 八戸サテライトスペース
TEL 0172-38-0500 TEL 0178-70-1663
E-mail : aomori.center@ouj.ac.jp

4月入学生募集 放送大学